

代表する森林が広がり、島の周辺海域にはサンゴ礁が発達した豊かな自然環境を有しています。特に西表島との間に広がる石西礁湖は、国内最大規模を誇っており、国内外から高い評価を得ているほか、学術的にも貴重な海域となっております。しかしながら、赤土流出などの陸域からの環境負荷、高水温等による白化など、その形態が大きく衰退している現状にあります。このような状況下にあるサンゴ礁の保全につきましては、陸域からの環境負荷を低減させる取り組みを関係機関や市民と連携して進めてまいります。

さらに、貴重な観光資源であるサンゴの持続的な保全を推進していくため、児童生徒への環境教育に資する教育カリキュラムの策定に取り組んでまいります。

本市南西部に位置する名蔵アンパルは、名蔵川河口部の干潟及びマンブローブ林を中心とし、亜熱帯地域における典型的かつ多様な自然環境がまとまった貴重な湿地であり、貴重種の生息地として重要な場所であることから、平成15年に国指定鳥獣保護区域指定、平成17年にラムサール条約湿地として登録、平成19年に西表石垣国立公園の一部に指定されました。しかしながら、近年、土砂流入や水質悪化により陸化の進行やマンブローブ林の拡大に伴う干潟域の減少など、環境悪化が指摘されていることから、環境省補助事業及びふるさと納税まちづくり支援基金の活用を検討し、名蔵アンパルの保全・利用計画策定を目指し、当年度は環境調査を行い、課題整理に取り組んでまいります。

犬猫の糞尿被害や繁殖などの生活環境への影響軽減を図るため、犬猫の飼い方のルールやマナーの普及啓発及び避妊去勢手術費用の一部補助を行うてまいります。

廃棄物対策につきましては、処分場施設機器の経年劣化による不具合及び埋立て残余容量の減少

などが大きな課題となっております。ゴミ処理施設は市民生活に直結する重要な施設であることから、最終処分場延命化対策事業計画を策定し、今後の施設のあり方について検討してまいります。

自然史解明に関する国の拠点となる「国立自然史博物館」につきましては、研究機関の併設による専門人材の育成や観光振興等にも大きく寄与することから、その誘致は大きな意義があります。昨年7月に東京都内で開催された沖縄県主催のシンポジウムには、八重山高校から3名の生徒がパネリストとして参加しました。これからも、沖縄県や民間組織等と連携し、官民一体となった誘致にかかる取り組みを進めてまいります。

尖閣諸島は、我が国固有の領土であり、本市の行政区域であります。このことは、歴史的にも国際法上も疑いのないところであり、現に国の有効な支配下にあります。しかしながら、中国公船による接続水域や領海への侵入が頻繁に行われ、尖閣諸島を取り巻く情勢は厳しい状況が続いております。尖閣諸島が我が国の領土であることを、より明確に国際社会へ意思表示し、世論の啓発を図っていくため、「尖閣諸島開拓の日式典」や常設展示しているジオラマなどを活用し、広報活動を行うてまいります。更に、尖閣諸島をめぐる情勢などを広く発信する場として、尖閣諸島資料館の整備・運営を国へ要請してまいります。

## 「快適で生活しやすいまち いしがき」

### 2. 快適・安心

空港の整備活用につきましては、外国人観光客の増加に伴い国際線ターミナル施設の狭隘さが課題となつてきていることから、施設の増改築事業に着手しております。2年後の新たなターミナル施設供用開始を目指し、更なる外国人観光客の受入れ

制を強化してまいります。

日本最南端の重要港湾である石垣港につきましては、昨年4月、南ぬ浜町新港地区において待望の大型旅客船岸壁の暫定供用が行われました。当年度は、道路整備や周辺緑地及び人工海岸等の施設整備に引き続き取り組んでまいります。また、クルーズ船受入にかかる満足度を高めるため、岸壁背後の機能充実を図り、引き続き屋根付歩道や道路照明など付帯施設の整備を進めてまいります。公園の整備につきましては、地域文化に貢献する場として、引き続きあんぐん公園園路広場造成を行い、当年度は新たにトイレ整備を行うてまいります。

新川真喜良地域がより魅力ある地域として将来にわたつて多様な世代が快適に住み続けることのできる、持続発展可能なまちづくりを目指し、新川市営住宅の建替工事に着手し、3年後の完成に向けて取り組んでまいります。

水道事業につきましては、水の安定供給を図るために、耐用年数を超過している石垣浄水場受変電設備の更新工事を行うてまいります。また、新たな水需要地区の増加に対応するため、新栄町・区画・街路配水管布設工事を行うてまいります。

下水道事業につきましては、当年度より地方公営企業法を適用し、経営状況を的確に把握するとともに、健全な運営を推進してまいります。また、毎年増加し続ける下水汚泥等の減量化を図り、し尿処理施設の負担を軽減化するため、石垣西浄化センター内において、汚泥処理施設の来年の供用開始に向けた整備を行い、市街地においての浸水・冠水対策にも引き続き取り組んでまいります。

新たな石垣市のシンボルとなる市役所新庁舎は、石垣の伝統や文化・風景を継承し、市民同士や観光客との交流の場になる開かれた集える場所として、また、市民の安全安心を担う防災拠点として当年度着工、2年後の供用開始を目指し着実に取